

第2次伊勢原市男女共同参画プラン 令和4年度施策点検・評価報告書

伊勢原市男女共同参画推進委員会

もくじ

○目標値の達成状況	…	1 ページ
○施策の方向ごとの評価の構成	…	2 ページ
○施策の方向1 男女共同参画の理解を深めるために	…	4 ページ
○施策の方向2 政策・方針決定過程へ女性が参画するために	…	6 ページ
○施策の方向3 男女が働きやすい職場をつくるために	…	8 ページ
○施策の方向4 家事・育児・介護を男女で共に担うために	…	10 ページ
○施策の方向5 仕事と子育てを両立させるための地域の子育て環境を充実するために	…	12 ページ
○施策の方向6 配偶者や親しく交際している相手からの暴力の根絶	…	14 ページ
○施策の方向7 心身の健康支援と性に関する理解の促進	…	16 ページ
○令和4年度 総括	…	18 ページ

目標値の達成状況

○第2次伊勢原市男女共同参画プランでは、施策の方向ごとに代表的な目標値を定めています。

●評価基準及び結果

◎…目標を上回る：2つ ○…（現状のペースでいけば）目標達成：3つ

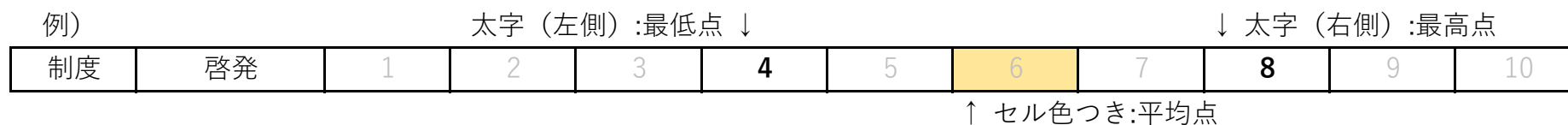
△…現状維持または基準年度よりやや低下：7つ ×…基準年度より低下：1つ

目標番号	目標の項目	基準値	目標値	2022(令和4)年度実績	事務局の 評価
施策の方向1 男女共同参画の理解を深めるために					
1-(1)	いせはら男女共同参画フォーラムの参加者数・参加者の意識変化 ①いせはら男女共同参画フォーラムの参加者数 ②アンケート結果「気持ちに変化があり、行動しようと思った」 の回答	①260人/年 (2014年度～2016年度平均)	①280人/年	参加者数：31人 視聴者数：279人	×
		②73.0% (2014年度～2016年度平均)	②76.0%/年	41%	
1-(2)	市内の全公民館における男女共同参画に関連する講座受講者数	775人/年 (2013年度～2016年度平均)	780人/年	342人	△
施策の方向2 政策・方針決定過程へ女性が参画するために					
2-(1)	各種審議会等の女性委員の割合	39.0%(2017年度)	40%以上60%以下(2022年度末)	39.6%	△
2-(2)	PTA、自治会の会長及び消防団員に占める女性の割合	PTA会長 7.1% 自治会長 6.9% 消防団員 5.8% (2017年度)	PTA会長 14.2% 自治会長 10.8% 消防団員 5.8% (2022年度末)	PTA会長 21.4% 自治会長 9.9% 消防団員 5.7%	○
施策の方向3 男女が働きやすい職場をつくるために					
3-(1)	就労環境に関する各種認定等取得事業所数	1社(2017年度末)	3社(2022年度末)	2社	△
3-(2)	ワーク・ライフ・バランスに関するホームページの作成	なし(2017年度末)	開設(2018年度) 充実(2019年度以降)	維持管理	○
施策の方向4 家事・育児・介護を男女で共に担うために					
4-(1)	男性の家事参加促進講座参加者数	334人/年(2016年度)	340人/年	—	△
				119人	
4-(2)	家族介護者教室参加者数	95人/年(2016年度)	190人/年(2022年度)	88人	△
施策の方向5 仕事と子育てを両立させるための地域の子育て環境を充実するために					
5-(1)	保育所待機・保留児童数	108人(2017年度)	0人(2022年度末)	108人	△
5-(2)	「この地域で今後も子育てをしていきたい」と思う母親の割合	90.7%(2016年度)	94.2%(2022年度)	91.5%	○
施策の方向6 配偶者や親しく交際している相手からの暴力の根絶					
6-(1)	暴力防止に関する意識啓発活動	2回/年(2016年度)	2回/年	3回	◎
施策の方向7 心身の健康支援と性に関する理解の促進					
7-(1)	子宮がん・前立腺がん検診の受診率の割合	子宮がん 11.9%(2016年度) 前立腺がん 28.5%(2016年度)	子宮がん 14.0%(2022年度) 前立腺がん 30.0%(2022年度)	子宮がん 9.8% 前立腺がん 30.3%	△
7-(2)	性の多様性に関する意識啓発活動	0回/年(2016年度)	1回/年	2回	◎

施策の方向ごとの評価の構成

○施策の方向ごとに、「男女共同参画推進伊勢原カルテ」と「項目評価及び課題と提言」を掲載しています。

- 「男女共同参画推進伊勢原カルテ」は、評価のポイントに沿って、10段階で各委員が評価したものをまとめています。



- 評価のポイントは、次ページを参照ください。

- 項目評価

施策の方向の中で、評価できる取り組み等について記載しています。

- 課題

施策を進める上で、課題・問題のあると考えられるもの・ことを記載しています。

- 提言

施策を進める上で、注意・対応してもらいたいもの・ことを記載しています。

○評価のポイント

制度	啓発	<p>制度とは、政策を円滑に営むために、集団の構成者や統治者によって定めた決まりごととして定式化、公認したもの。</p> <p>制度の評価は、国の男女共同参画推進項目に則った形で、市としての方針、到達目標値、具体的計画として定義され、認知されているか？</p>
	教育カリキュラム	
	人材育成、人材開発	
	相談窓口	
	サービス・支援	
	PR、発信方法	
体制	啓発	<p>体制とは、「社会や組織における継続的な構造」のこと。</p> <p>体制の評価は、市の方針、目標値、具体的計画達成のための組織作り、評価体制、予算化、リソースの確保などができているか？</p>
	教育カリキュラム	
	人材育成、人材開発	
	相談窓口	
	サービス・支援	
	PR、発信方法	
運用	啓発	<p>運用とは、そのものもつ機能を生かして用いること。</p> <p>運用の評価は、市民に向けた具体的なアクションの実施と評価、窓口やサービスの状況、具体的な予算、人員の配置などがされているか？</p>
	教育カリキュラム	
	人材育成、人材開発	
	相談窓口	
	サービス・支援	
	PR、発信方法	
	システム化	
	予算確保	
	人員確保	

男女共同参画推進伊勢原カルテ

1 男女共同参画の理解を深めるために

制度	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体制	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
運用	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	システム化	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	予算確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人員確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

1 男女共同参画の理解を深めるために

項目評価

コロナ禍においても啓発講座や研修の実施など、目標の達成に努力されたことを評価する。

課題

1. 男女共同参画の理解を深めるためには、地道な啓発活動を継続し、常に新しい情報を幅広い世代に発信することが必要。
2. 啓発に関しては、コロナ禍を経験し、変化したニーズを捉え直して、再検討が必要。今まで男女共同参画に関心がなかった人が、いせはら男女共同参画フォーラムなどに参加するためには、魅力あるテーマまたは必要性が重要。
いせはら男女共同参画フォーラムに関しては、告知・集客方法について、改めて検討が必要。また、市民と委員会との意見交換の場の開設の検討については、場所や機会の創出を含め積極的なアクションの議論が今後も必要。
3. 人権感覚をもった大人を育てて行くためには、あらゆる機会を活用した教育と啓発や教職員等の人材確保が必要。

提言

1. 男女共同参画の理解を深めるために、うまくいった他の自治体の具体例を参考にして、システムや啓発を再考してほしい。
2. 啓発に関して、地域（家庭内、自治体など）の多様な意識、価値観に対して、男女共同参画の理解と意識を啓発する市民啓発教育の必要性があり、ワークショップなど関連啓発プログラムの実施と継続的開催に必要なリソースの確保をしていただきたい。また、委員会と市の担当部門との意見交換の場の検討をしていただきたい。
3. 教育と啓発においては、委員会と高校との連携を、将来中学校・小学校へと広げ、教育に役立ててほしい。また、教職員研修等で、いせはら男女共同参画フォーラム（動画の利用）や男女共同参画推進委員会委員を講師として、活用してほしい。
4. 男女共同参画に関する総合的な相談窓口の早期開設の検討を、継続して検討していただきたい。



男女共同参画推進伊勢原カルテ

2 政策・方針決定過程へ女性が参画するために

制度	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体制	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
運用	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	システム化	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	予算確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人員確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

2 政策・方針決定過程へ女性が参画するために

項目評価

防災関連分野を中心に女性参画意識の醸成や、女性視点での推進を実施した点を高く評価する。

女性がさまざまな事業に積極的に参加できるよう、設置した保育ボランティアの運用をしていることを評価する。

課題

1. 各種審議会の女性参画に対して、参画意志のある女性が自由に参加・発言でき、その意見を平等に議論できるように女性の参画比率に制限をつけることなく、各審議会運営も改革を進めるべき。
2. 各種審議会の女性の参加を、すぐに変化させるのは難しい。また、比率を増加させることには、時間を要する。
3. 女性がなぜその立場につけないのか、つかないのかを検証し、環境整備などをして、その原因の解消をしていくことが必要。また、共働きの女性が、政策・方針決定過程に参画するためには、夫、子ども、祖父母などの理解が不可欠。特に夫の協力が最も重要であり、家庭内での家事分担など夫への意識改革・啓発が必要と考える。
4. 女性の参画拡大に向けた市の取り組みについて、広くアピールされると良い。メルマガなどの紹介・告知・PRする方法を検討できないか。

提言

1. 参画拡大に関し、古くからの慣例や考えがこれからの社会では非常識かもしれない点を啓発し、時代に即した多様な価値観で、審議会や組織活動が推進されることを期待する。
2. 各種審議会の女性の参加については、選出するしくみを再考できないか。また、女性が参加することにより変化する、ポジティブなビジョンを提示するなどのイメージを伝えられないか。
3. 女性をはじめ、さまざまな立場の人が責任ある立場になったことで、その場が良くなったことを市民が実感できる事例（避難所の運営など）を市民に伝えてほしい。また、女性目線でのきめ細やかな避難所イメージや防災活動について、担当部門と委員会の議論の場を検討していただきたい。
4. 市の取り組みのPRに関して、自治会に未加入で回覧板が回ってこない、広報紙や張り紙も見ない人が多いと思う。TwitterやFacebookはしていると思うが、さまざまな情報を発信するメルマガもあると良い。



男女共同参画推進伊勢原カルテ

3 男女が働きやすい職場をつくるために

制度	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体制	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
運用	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	システム化	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	予算確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人員確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

3 男女が働きやすい職場をつくるために

項目評価

ワーク・ライフ・バランス講座や情報提供及び就労支援の取り組みは、女性の就業意欲の醸成や社会参画の支援として評価する。

課題

1. 各種認定を取得する会社が少ない。企業への説明・アピールが不十分なのではないか。ワーク・ライフ・バランス、雇用促進については、次のステップとして職種・中小企業などに特化した取り組みが必要である。
2. 各講座の内容は良いのだが、ワーク・ライフ・バランスは子どもの年齢や介護の程度によって大きく変わるので、多様なニーズに即した情報提供方法やプログラムの検討が必要。また、どの施策にも言えることかもしれないが、PR、周知に課題を感じる。（市民として知らないことの方が多い。LINEなどで通知が来ても、それ以上情報を取りに行くことがなかった）
3. 女性への就労支援、特に母子家庭の就労支援（3-8）については、認知度が低いため、利用者、申請者が少ないと考えられる。本来、見えない貧困や母子家庭の生活の安定のためには、大変重要なことだと思う。認知度を上げる必要性あり。
4. 市街化調整区域内の休耕地の利用方法など、未来志向の議論・アイデアが無い。特区を作って実証実験するなどが必要では？

提言

1. 各種認定の取得について、直接地元企業へ訪問などの説明・アピールのための人員を確保すべき。えるばし認定を得た企業や事業所が、ワーク・ライフ・バランスを実践していることを周知すると良い。また、安定雇用・雇用率upへつながる、職場環境作りのための情報提供をしてはどうか。雇用促進、情報提供で留まらず、実施状況を数値化して把握し、開示をしていただきたい。さらに、安心して子育てに時間が使えるよう、職場の人員増により、業務を分かち合える環境が必要であり、育休や短時間勤務対象者が出た職場に補助金が出る制度があれば、同僚に申し訳ないという気持ちが減少するのではないか。
2. 情報提供の方法として、ワーク・ライフ・バランスのホームページは、見づらく、読む気がしない。こまめな情報の更新も必須。もっと柔らかい雰囲気なら読みやすい。LINEも文字が多いので、講座の案内時に写真を利用できると、雰囲気が分かって参加しやすくなる。
3. 女性への就労支援に関しては、子どもの健診や各講座に、就労環境に関する相談をできる人員を配置するなど、市民が身近に感じられる活動をしてはどうか。
4. ワーク・ライフ・バランスの実現に近隣エリアでの就業は重要で、市民の就業相談機会拡大や事業者の雇用促進対策の取り組みの拡大を期待する。

男女共同参画推進伊勢原カルテ

4 家事・育児・介護を男女で共に担うために

制度	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体制	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
運用	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	システム化	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	予算確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人員確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

4 家事・育児・介護を男女で共に担うために

項目評価

家庭における家事・育児・介護分担などに対する情報提供機会の充実に向けて、取り組みを継続している点を評価する。

課題

1. 家事・育児・介護を男女で担っていくと意識を変えていくためには、継続的な発信が必要。
2. 介護に関する知識や準備のための教育として、ジェネレーションを分けた（高齢の親を持つ子60代、50代、40代）教育機会が無い。
3. 結婚後の夫婦に、ライフプランを学習する機会を提供することが必要ではないか。
4. 育児に関しても、介護に関しても自分が必要だと感じないと興味を持たず、情報も取得しようと思わない。育児に関しては男性の参加も当たり前になってきたが、介護の分野については、今対象となる世代を考えても、男性も担うという意識が薄いと思う。介護に関して男性から情報を取りにくいイメージがない。

提言

1. さまざまな取り組みを生かして、女性が生き生きと暮らせる伊勢原という、イメージを定着させたい。
2. 男女の老い（老年学）に関する夫婦（男女）の在り方について、委員会と担当部門と意見交換したい。
3. これからの家庭のライフプランを学習することにより、家事・育児に対する考え方を共有でき、参加しやすい環境作りをする。
家事・育児分担ワークショップが継続運営できるよう、予算化含め体制を検討していただきたい。また、前年の家事・育児分担ワークショップを実際に行った職員の体験談をHPで紹介したり、子どもの年齢別のワークショップや子ども（家族全員）参加のワークショップなども行ってはどうか。
4. 現在開催されている介護教室は、必要となる時期が近い人でないと参加しない感じがするので、もう少し前の段階の世代が参加しやすい講座を開き、夫婦や兄弟で話し合える環境を作れると良いのではないか。また、実施された介護教室の男女の参加比が分かるように市民へ公表して、少しずつでも男性の参加者が増えていけば、参加しやすくなるのではないか。



男女共同参画推進伊勢原カルテ

5 仕事と子育てを両立させるための地域の子育て環境を充実するために

制度	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体制	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
運用	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	システム化	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	予算確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人員確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

5 仕事と子育てを両立させるための地域の子育て環境を充実するために

項目評価

子育ての不安を解消するさまざまな取り組みを評価する。

課題

1. この地域で今後も子育てしていきたい理由に加えて、要望を知ることにはできないか。全国平均に達しなかった理由は何か、調査すると良い。
2. 未就学児に関する講座はよく見るが、小学生以上に関するものが少ないように感じる。仕事と子育てを両立している人が抱える悩みや不安を解消できる場が少ない。
3. 保育所待機・保留児童が平常化しているのか、危機感が足りないのではないか。待機児童の問題は、子育て世代の就労や生活の維持に影響を与えるケースも多く、保育士の確保や、民間の保育施設連携などの検討を強化する必要がある。また、保育園には預けられたが、小学生になるとき学童に入れなかった話を聞いた。学童の充実についても検討が必要。
4. 児童虐待については、近年表に現れないケースがあったり、若年世代の妊娠による乳児遺棄などもあり、関係各所とのきめ細かな連携や虐待の早期発見などが重要。

提言

1. 市全体、地域全体で子育てをしていく風土を育てるために、何が必要かを考えてほしい。
2. 小学生以上の子を持つ親も参加できるワークショップや教室を開催してほしい。仕事と育児を両立している・両立したいと思っている人が不安を解消できるような教室を開催してほしい。
3. 保育士の人材確保がすすまないのはなぜか分析。予算の問題なら、根本的な政策の見直しを。
保育士向けの説明会を開くなどしても待機児童数は改善されていないので、別の対策として、将来の人材確保という視点から、近隣の大学（東海大学など）と連携をとってはどうか。学生の学びのため、職場で経験を積む機会を提供する代わりに、大学から新しい知見や園の体制改善のための助言をもらうなど双方にメリットがある形をとり、保育士が働きやすい環境づくりに力を入れてはどうか。働きたいと思える園であれば学生がそのまま就職してくれることも考えられる。
他部署では、仕事と子育ての両立に関する事業を促進しているが、情報が共有できているか。保育園数を削減したツケが発生していないか。早急な待機児童ゼロへの対策を取るべく、市民ファーストの対応を願う。
4. 児童虐待へ対応する相談員のスキル向上と相談窓口の拡張を検討していただきたい。また、子ども家庭相談事業（5-6）の受理件数（要保護児童、要支援児童、特定妊婦ケース）は、否定的にも捉えられるため、どう解釈したら良いか、再検討すべきと考える。

男女共同参画推進伊勢原カルテ

6 配偶者や親しく交際している相手からの暴力の根絶

制度	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体制	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
運用	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	システム化	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	予算確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人員確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

6 配偶者や親しく交際している相手からの暴力の根絶

項目評価

窓口だけでなくDV相談専用電話の活用など、従来より相談しやすい環境が整えられていることを評価する。

DV防止に向けた積極的な啓発活動や相談フローの整備などが整ってきた点を高く評価する。

課題

1. 表に見えていない、潜在的なDV被害者及び加害者もいることを意識した、相談、安全確保などに対する市の体制を、多くの市民が認知できるようなPRが不足。また、具体的な犯罪認定の実例教育や被害者・加害者判断の理解教育も足りていない。
システムや組織は構築されているが、必要な人々へ行き届いて（周知・PR）がされていないのではないかと感じる。活動しているのは理解できるが、委員であっても、DV相談窓口がどこにあるのか知らない。
2. 相談体制について、実施状況（相談件数・予算の執行状況など）を数値化すると分かりやすいのではないか。
3. デートDVには、教育者側がハードルを感じていると思う。

提言

1. 相談窓口の周知に関しては、女性から男性に対し暴力をふるわれるケースだけでなく、子どもに対しての暴力も相談が可能であることを、事例を示しながら啓発してほしい。また、広報紙以外の周知方法を模索してほしい。駅の北口階段にポスターの掲示をすることは、市民に伝わりやすいと考える。
2. 相談対応・体制は、充実していると感じる。女性の就労支援や働き方とDVは大きく関係しているので、他課との連携に努めてほしい。また、専門相談員の充実と適切な運用については、相談者に不安を感じさせない対応を継続的に見直し、強化していただきたい。（プライバシーに配慮した専門窓口、万全な秘密保持体制づくり、被害者の保護フローなど）
3. デートDVの啓発においては、互いを尊重し合う関係を主に、何かしらの形にしてほしい。



男女共同参画推進伊勢原カルテ

7 心身の健康支援と性に関する理解の促進

制度	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
体制	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
運用	啓発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	教育カリキュラム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人材育成、人材開発	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	相談窓口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	サービス・支援	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	PR、発信方法	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	システム化	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	予算確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	人員確保	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

7 心身の健康支援と性に関する理解の促進

項目評価

コロナ禍において子宮がん・前立腺がん検診の受診控えが見られるが、住民の健康支援の取り組み体制は十分評価できる。性の多様性やハラスメント、ストーカー対策支援プログラムなどの取り組みも充実してきており評価する。

課題

1. ハラスメント含め性被害防止対策としてパネル展示などは良いが、市民に浸透していないと感じる。受け身の対策ではなく、プッシュ型（LINEでの情報提供など）の対策の検討が課題。
2. パートナーシップ宣誓制度導入後のフォロー、制度の使い方、不十分な所があれば、フィードバックを行うシステムの構築が必要。
3. 子どもの自殺が、昨年も多いことが発表された。〔19歳以下自殺者数（全国）…令和4年：798人、令和3年：750人、警察庁「令和4年中における自殺の状況」より〕
4. 健康支援に関する情報は、いせはら 暮らし安心メールやポスターなどで告知をして、市民の目につきやすくすることが必要。

提言

1. 性（理解）教育やハラスメント教育などの映像学習やeラーニングなどによる個別学習プログラムについて、市民教育の検討を期待する。
2. 男女の性差、多様な性、男女の性差疾病及び老化現象や症状の理解など具体的な教育カリキュラムについて、引き続き委員会で検討するので関連担当部門との意見交換の場を検討していただきたい。
3. 自殺予防のため、より一層、全世代に身心の健康への意識啓発に努めてほしい。
4. 検診などの受診料を市で負担して、市民が受診しやすいようにする。年齢に応じて受診料を無料にするなど補助をお願いしたい。



令和4年度 総括

令和4年度施策点検・評価については、男女共同参画推進委員会の昨年の提言や課題として改善・改革をお願いした項目に対して、各担当部門におかれましては真摯に対応を検討いただきありがとうございました。また、各施策目標についてもコロナ禍の中でさまざまな知恵を出し、プラン目標達成のために推進、実施していただけたことは、大いに評価いたします。

しかし、長引くコロナ禍の影響により、市民にも積極性が失われ、市のさまざまな取り組みへの参加意欲が低下しているようにも見受けられます。一旦初心に戻り、施策の目的や意義を明確にし、市民一人一人にその考えが届けられるとともに、安心・安全で健康的な生活が維持できるよう、各施策の推進をしていただきますようお願いいたします。

今年度（令和5年度）は、第3次伊勢原市男女共同参画プランのスタート年度であり、各施策の100%目標達成に向け、市民目線で積極的かつ丁寧なアクションを期待しております。

委員長 和田 優